



藤原和博マネジメントスクール

新しい経営10の視点

リクルートと和田中学校に共通するマネジメント手法

経営層・管理職・初めて部下を持つ方へ

- コミュニケーションカアップ ● チームビルディングの向上
 - マネジメントスキルならびにクリティカルシンキングの訓練
 - 付加価値を常に付けるクセ ● 部下の動機づけ……
- などが期待できます。

※ビジネススクール、大学のゼミ形式のイメージ、参加型受講スタイルとなります。

リクルート社が圧倒的な業績を上げているのはなぜか、どのようにして和田中学校が地域に開かれた学校に変わったか。2つに共通するマネジメントの手法、極意をお教えします。

●対象	経営層・管理職・初めて部下を持つリーダーなど。
●狙いとする効果	「経営」という視点からマネジメント力を強化します。 個々の力を最大限発揮し、組織としても最高のパフォーマンスを期待できます。
●特徴	リクルート勤務時代は3年連続トップセールスを記録。 新規事業立ち上げでは数々の重要案件を成功に導き、 リクルートのスローガン「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」を文字通り実践してきた藤原氏。 営業課長、次長、部長、本部長の全てを経験したマネジメントのプロでもある。 また、東京都で民間人初の公立中学(杉並区立和田中学校)の校長に就任し、「世界でいちばん通いたい学校」づくりを目標に掲げ、 経営的視点を取り入れながら学校だけでなく地域社会を巻き込んだ改革を実行し、入学希望者も急増した。 リクルート、和田中学校で実践した2つに共通する経営・マネジメント手法を受講生の皆さんとゼミ形式で考えていきます。 ※テーマに応じて複数回に渡って行います。
●時間	1講座 1～3時間程度 ※ご希望に応じて時間と講座数のアレンジを致します。
●テキスト	藤原和博著書『リクルートという奇跡』(文春文庫)、『つなげる力』(文春文庫)、 『不可能を可能にするビジネスの教科書』(筑摩書房)など。 ※変更する可能性がございます。
●テーマ	①「ストロークを多くする」 リズムとテンポを重視して、職場のスピード感覚を速める。報連相のスピードを上げ、修正主義で事を運ぶ。
	②「フラットな組織」 ピラミッド(ヒエラルキー)を壊して、平面的で柔らかいチームを編成する。
	③「社会貢献的な要素を打ち出す」 先陣を切って社会貢献を行う組織の強さを考える。
	④「遊びの要素、学びの要素を強くする」 自己のライフデザインと人生戦略を考え、自己実現感覚を養う。
	⑤「合理主義を突く～【正解】ではなく【納得解】」 関わる他者も含めて納得感のある戦略・戦術を使い、判断を合理的に下す。
	⑥「情報の共有～社員持株会をどう位置づけるか？」 同じ情報を経営者からアルバイトに至るまで共有できる情報の土俵を作る。 双方でコミュニケーションできる情報システムの確立をする。
	⑦「資格ではなく、意思によって任せる」 資格にとらわれず、意思を持つもの・手を挙げたものにチャレンジをさせる。
	⑧「一人一人の動機づけをサボらない」 中間管理職に任せない。従業員一人一人と個別にベクトル合わせを行う。
	⑨「カリスマ色の必要性」 ビジョンを共有する強い組織にある「宗教性」。ビジョン・風土・カリスマの存在必要性を考える。
	⑩「シンボルのマネジメント」 象徴となるものに集中して投資を行うことで、社員の意識を一気に変革する。